第 36 回卒業証書授与式

はなむけのことば

○　今、各クラス代表をとおして卒業証書をお渡しした、１９１名の深沢高等学校 36 期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。担任の先生からの呼名に堂々と答える皆さんの姿を頼もしくほほえましく拝見していました。

○　また、卒業生の保護者・ご家族の皆様にも、お子様のご卒業をお祝い申し上げるとともに、これまで本校の教育活動に対しまして、ご理解とご協力を賜りましたことに、深く感謝を申し上げます。（一礼）

○　昨年５月に新型コロナウィルス感染症が５類に引き下げられ、さまざまな教育活動にかけられていた制約も少しずつ緩和されてまいりました。パンデミック以来、中止や延期を余儀なくされていた学校行事等も、昨年度から制約を設けた中で再開し始めました。

○　しかし、中止や延期、縮小の期間が２年半ほどにも及んだため、再開しようとする学校行事に対する経験が、生徒たちにも先生方にも乏しくなっており、ほとんどすべてを手探りで作り直すことになりました。

○　36 期生の皆さんは、その渦中において、まさに学校生活や学校行事を再生させるべく、先生方と力を合わせ、さまざまなアイデアを持ち寄って、新しい深沢高校の魅力を作り上げてくれました。そのことに対して、私は皆さんに大変感謝していますし、心からお礼を言いたいと思います。ほんとうにどうもありがとう。（一礼）

○　特に、昨年度の学校説明会では、生徒会長をはじめとする生徒会役員の学校紹介、ダンス部・卓球部・ライフル射撃部・演劇部・サッカー部によるパフォーマンス、そしてスペイン語選択生による学習活動の発表など、皆さんが主体となって中学生たちに深沢高校の魅力を伝えてくれました。

○　そのお蔭で、再編・統合が公に発表となり、その年の受検生が減ってしまうのではないかという我々の予想は見事に覆されて、定員通りの新入生を迎えることができました。

○　また、皆さんが最上級生として後輩たちをリードする体育祭では、五つのクラスを六色の団に解体し、昨年度の３学期から準備を始め、グループアトラクションやマスコットパネル、Ｔシャツデザインなど、各団これまでにない仕上がりでした。団長たちによる、外国語を交えたグローバルな選手宣誓も印象深く思い出されます。

○　「深刻（ふっこく）」というテーマを冠し、４年ぶりに一般の来場者をお迎えした深高祭においても、皆さんの力は遺憾なく発揮されました。学校祭実行委員と生徒会とで企画した、オープニングとクロージングのセレモニーは本当に手作り感満載で、実行委員長が作成してくれた動画には感動を超えて、感銘すら受けました。

○　先日の登校日、36 期生ひとり一人の思いがこもったタイムカプセルが、本校の敷地内に埋められました。あと３年で完校を迎える本校では、皆さんの思いを熟成させるための時間が足りないかもしれません。しかし、それぞれの進路に歩を進めた同期生と、そう遠くない未来に再会を果たせる、そんな素敵な予定が一つあることは、とてもうらやましいことだと思います。

○　加速度を増す予測困難な現代において、それぞれが自ら選択し、つかみ取った新たな環境で、皆さんはようやく自分自身のための学びをスタートさせます。時には、目の前に立ちふさがる困難に翻弄されて、自分を見失う時もあるでしょう。それでも、よりよく生きるための学びを止めるわけにはいきません。どうか勇気を奮い起こして、できることから一つずつ物事を進めていってください。皆さんのこれからの健闘を祈念して、はなむけとさせていただきます。